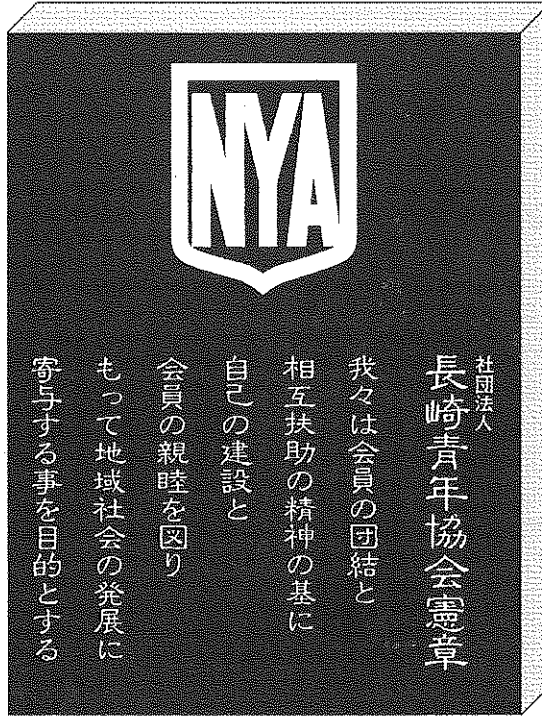


社団法人 長崎青年協会



—今月の行事—

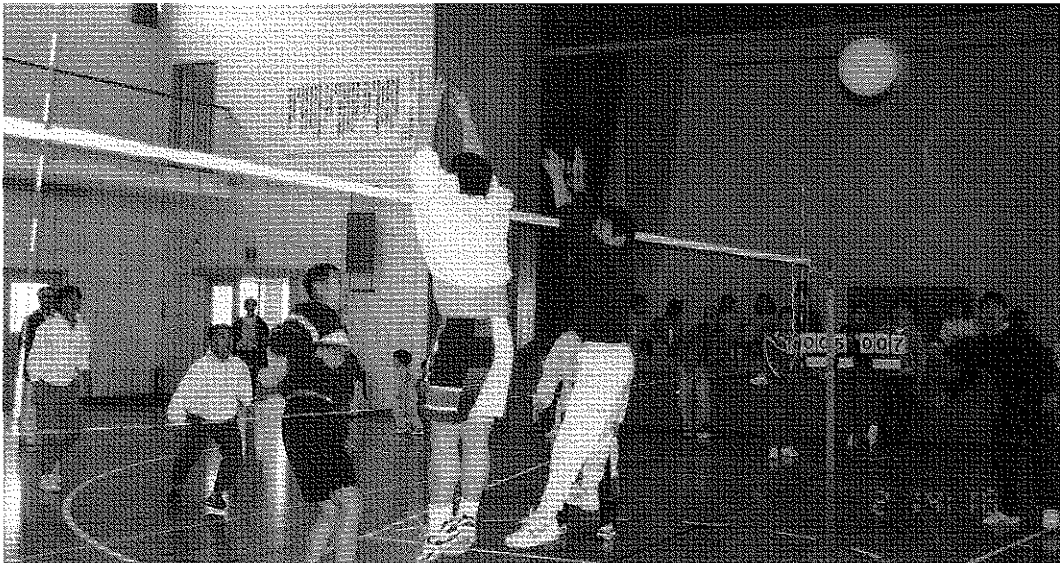
- 新人研修 2日
- 理事会 5日
- 第4回「留学生と市民の集い」懇親パーティー 9日
- 理事会 17日
- 卒業者を送る夕べ 21日

3

発行 / 長崎市魚の町7-7
(社)長崎青年協会
会長 田川 俊幸
編集 / 広報委員会
広報委員長 原 喜一郎

スローガン

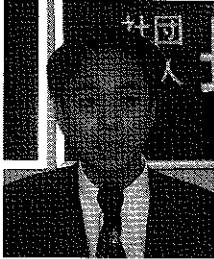
「・・・らしく」



新人研修 ソフトバレー大会

会長挨拶

会長 田川 俊 幸



いよいよ、平成8年度もあと数日を残すのみとなりました。皆様方には、この1年間、「・・・らしく」のスローガンのもと大変熱くご協力頂きました事、感謝申し上げます。次年度も皆様の個性を活かして青年協会を考え行動して頂ければ、より感動ある事業展開が推し進められるものと期待いたします。

さて、3月は“卒業”のシーズンです。長崎青年協会も、今月「卒業を送る夕べ」を開催いたします。どうしても“卒業”の言葉の裏に“別れ”のイメージが付き纏いがちですが、青年協会での出会いは、一生の財であります。今年度ご卒業の5名の皆様にも、今後のお付き合いをお願いして、長年にわたる青年協会での活躍を労う宴にしたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

先日、後期の新人研修で「ソフトバレーボール大会」を担当新人の準備のもと開催致しました。その中でも5名の卒業生が揃って参加され最後まで精一杯にプレーする姿を見せて頂きました。夜の懇親会では、青年協会現役としての最後の事業に満足されたのか、非常に楽しそうに飲んでおられたのは、成し遂げた者のみが味わえる“美酒”ではなかったのでしょうか。我々も、最後までこだわりを持って協会活動に参加し、是非その“美酒”を戴きたいと思ひました。

2月定例会

日時：2月21日(金)
於：ホテルニュー長崎



厄入り者の忌樽の儀

2月21日、定例会が開催されたが恒例の講師講演は、講師をお願いした曾 文彬氏(中華人民共和国駐長崎総領事)が、鄧小平氏の急逝に伴い喪に服されるため見合わせる事になった。

その為急拠予定を変更し、各委員会および同好会の年間活動に対する反省スピーチが実施された。これは各委員長や同好会メンバーが、それぞれの担当した事業や企画に対しその思い入れや反省を語ることで、次年度のより一層の内部充実を図る目的で行われたもの。

後半では担当の地域事業委員会の進行のもと、昨年6月の厄入り懇親会での「忌樽の儀」の開封式がおごそか

に(?)とり行われた。

祓い清められた樽に封じられていた思い思いの事柄を記した掛け軸が、約半年ぶりに厄入者らの手によって開封され、コメントとお礼が述べられた後、皆で厄晴れを祝った。

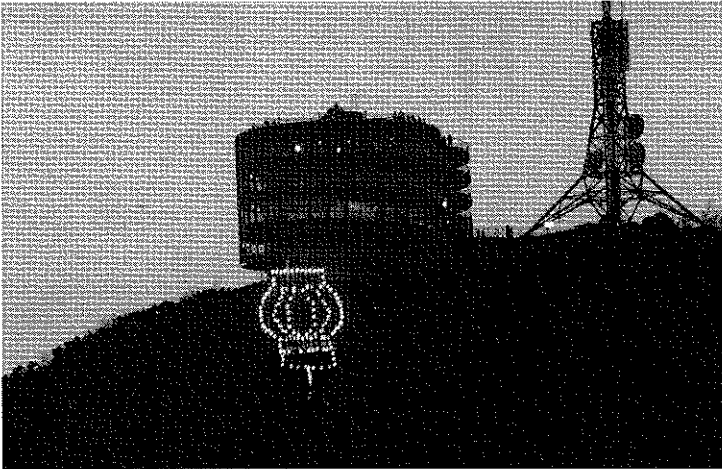
尚、無事厄が晴れたメンバーは以下の通り

松島OB、張OB、新井君、白山君、田中君、(張OBは所用のため欠席)



稲佐山の燈會を終えて

地域事業委員長 西崎達也



去る2月7日より2月16日までの10日間、ランタンフェスティバルの一環として、稲佐山山頂斜面(現行星型イルミネーション)に、ランタンをかたどったイルミネーションを設置しました。2月1日の設営開始の日、稲佐山大駐車場に姿をあらわした日から2月7日の点灯開始までの間、点灯試験2回、電飾の配置替え2回等をほとんど夜間に作業を行ってきました。しかも10日間の間各委員会の方々には年度末の忙しい中、しかも厳寒の中警備担当していただき無事、

事無きを得て、これも役員をはじめ協会の皆様の協力で為し得た事と感謝致しています。また、2月14日にはランタンイルミネーションの点灯終了後ハート型イルミネーションを点灯し市民の皆様から好評をいただいたと聞いて私個人的に満足するものがありました。しかしながら今回の企画において、反省点として協会員に対する広告知が徹底しておらず事後報告になった事があげられる。最後に今回大変お世話になった、大平OBと、長崎観光開発株の皆様へ深く感謝致します。本当に有り難うございました。

長崎ランタンフェスティバル

地域開発委員長 川原哲也

ランタンフェスティバルマソ行列を終えて

本年度は青年協会自体のランタンフェスティバルに関する方針を踏まえ、マソ行列の参加者としてではなく、意志を以て側面からの支援というスタンスをとらせてもらいました。担当委員会としては警備担当、花火担当(金網を持つ係)、それぞれが媽姐行列の行事の中で積極的に仕事を見つけて参加して

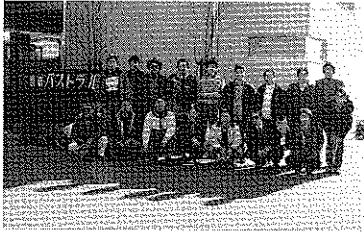
いました。2/7~2/16の期間中、稲佐山の燈會のランタンを形どったイルミネーションの点燈、又、警備の役割があつたにもかかわらず自分達の時間の都合をつけてかけつけてくれました。事業を実施するということで協会員の思いやり、気配りは本当に敬服いたします。そんな事でありながらも、表にでて目立つ事もなく物足りない部分もあつたと思います。しかし委員会のメンバーも文句一つ言わず全てのメンバーが協力してくれた事に厚く感謝しつつ、委員長として、ある程度満足できる内容でした。



媽姐行列

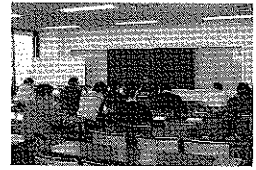
研修旅行 in 大分

平成9年2月22日(土)・23(日)



ホテル前にて

去る2月22日(土) 澄み渡る青空のもと今年度研修旅行が総勢18名の参加を得て行われた。白山室長らの見送りを受け定刻12時半に出発、一路大分を目指した。



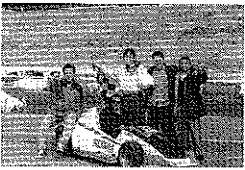
研修風景

車内では部屋割りドラフト後、3班に別れ原田総務副委員長の進行で「30周年を考える特別座談会」が催され、熱心な討議と発表が成された。途中休憩後は車内でのペーパーテスト。小学校6年生の主要科目のドリル

に皆、悪戦苦闘。栄えある第1位には下釜君が輝いた。

午後4時、大分市のコンパルホールに到着、今回の研修旅行の目玉である[湯布院映画祭実行委員会]の伊藤 雄様の講演を受けた。昭和50年代初頭からの伊藤様を始め湯布院青年団のスタッフの方々の苦勞話や、映画そのものに対する深い愛情と造詣をかたっていた。

有意義な講習を終えて宿泊地である別府温泉パストラルホテルへ。汗を洗い流し、さっぱりして和気あいあいの懇親会后、町に繰り出して社会見学。忍耐力や交渉力の研修となった(?)。ホテルに戻ってからはそれぞれにゲームに興じたり、酒を酌み交したりで懇親を深めた。



カートレース優勝チーム

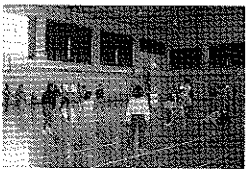
翌日は雪まだ残る九重連山を眺めながらやまなみハイウェイを通り、阿蘇オートボリスへ。ここでは体験型研修として班対抗のカートレースを行った。結果は青年協会のスピードキング、山口丈司君を擁する[大石チーム]が前日のペーパーテストでのハンディをくつがえし栄冠を手にした。本コースのバス体験走行後、帰路につき定刻5時半に長崎到着。

「見る」「聞く」「学ぶ」「考える」「体験する」と盛りたくさんの研修旅行であった。研修委員会の皆さんお疲れ様でした。

新人研修 by ソフトバレー

平成9年3月2日(日)

去る3月2日(日)、小ヶ倉中学校体育館においてソフトバレーボール大会が開催された。この大会は後期新人研修として企画されたもので、約50名の参加者を6班に分けリーグ戦で覇を競い、MVPを獲得した新々江直前の活躍で、田川俊幸チームが見事優勝を勝ちとった。



研修委員会：峰 章二

今回の総括研修に関して事業が続くなか多数のご参加を頂き会員の皆様には、新人メンバー共々お礼申し上げます。今回6人の新人がそれぞれお互いをカバーし影となり日向となり、素晴らしい研修が出来たと思います。

今後のNYA、その他の活動に活かして欲しいと思います。

皆さん必至!!

阿比留 正治(新人研修リーダー)

新人研修をリーダーとして担当させていただきましたが、白山室長や研修委員会の皆さんには、いろいろご心配をかけ、申し訳なく思っております。又、諸先輩方にもご協力を賜り新人一同感謝いたしております。皆で一生懸命命恵をしばり、我々なりに頑張ったつもりです。早いもので入会して、3ヵ月余りが過ぎ、少しずつではありますが協会での自分自身のあり方が解ってきたような気がします。今後は今回の研修を糧として、協会精神に乗っ取り新人一同努力していきたいと思ひます。

(一口コメント)

仁藤 和彦：新人らしいドタバタ劇で皆さんにご迷惑をかけたが、終わりよければ…。

森田 克司：大成功?で終了。皆様との交流が計れいい経験になりました。

関 礼二郎：新人が皆で協力して出来たことをこれからの活動に生かしてがんばっていきます。

蕃 賢剛：年の差を感じさせない和気あいあいとした様子を見て、今後も極力参加していきます。

吉田 浩文：協会憲章の「団結と相互扶助の精神」というものが理解できました。

卒業生とはこんな人!? 追い出し企画、[言いたい放題]

各方面の声を集めてみました。(似顔はお子さんからいただきました)

田中 潤介君



- 縦横内外の繋がりをそつ無くこなす、あんたはエライ!!
- 口説き(交渉)上手な知識人(?)。おしゃべりなのが玉にキズ。
- センスの良さが持ち味。そのシャレっ気を忘れずに。
酒が入ると…よく喋る!

白山 光男君

- 君のブリーフ姿は忘れない。そのこだわりをいつまでも!
- 説得力のある言動にはいつも敬服。○知的な人、でもイビキは殺人的。
- 家庭、仕事、協会すべてに一途。心うたれます。
酒が入ると…ウルサイ!



新井 正実君



- 仕事の拡大と同様に人への思いやりを大切に。○隠れた愛妻家
- ニヒルな笑顔で何を考えてるか最後までわからなかった。
- いつも冷静沈着。ひょうひょうとして、落ち着いています。
酒が入ると…へろへろになる。

板倉 和人君

- 頑固な性格、個性的な顔と声。濃いキャラクター。
- 後輩思いで、愛情深い演歌テイストなオヤジ。
- 仕事にも人にも情熱家!でも、夜中に他人の家に乱入するのは困りもの。
酒が入ると…人格が変わる。



新ヶ江憲和君



- 仕事に対する熱心さ、味へのこだわり、探求心。努力家です。
- 何に対しても一生懸命取り組む姿は見てて気持ちいい。
- 暖かい人柄といい意味でのこだわりがある人。内容のあるお洒落です。
酒が入ると…寝る!

決してノンフィクションではありません。

群雄の声 = OB列伝 =

森山 茂OB



私はこの青年協会に30才で入会し、40才の卒業まで約10年間在籍させてもらいました。協会を卒業してもう8年がたちましたが、「長崎青年協会」の名を見開きする度に、なつかしく思われます。私がこの青年協会に入会したのは友人の金子寿英君の紹介で同期の黒瀬勝幸君と一緒に入会しました。当時はチャーターメンバーも多数おられ最初はとても緊張したのを覚えています。入会して、しばらくは例会や委員会にも積極的に出席する方ではありませんでしたが、だんだん雰囲気にも慣れ多くの仲間と共に同じ目標に向かって事業をやるうちに協会の活動が楽しくなり、すっかり生活の一部になってきました。特に昭和62年には会長をさせてもらい多くのスタッフに助けられながら1年間務めさせてもらい私自身何ものにも変えられない貴重な体験をさせてもらい感謝の気持ちでいっぱいです。当時は週に1回家で食事をすればよい方でした。私の仕事は現在父の跡を継ぎ自営業(酒類販売)ですが、青年協会での10年間は私なりに仕事と協会の両立はできていたように思います。

さて私の仕事ですが、我々の業界も非常に厳しい状況ですが、この不況をのりきり、新しい形の商売もと考えているところです。協会員の皆様も、この不景気にも、くじけることなく自分の仕事を信じて励まれることをお祈りします。

最後に現会員へ一言ということですが、現在の青年協会はとてもスマートで、素晴らしい活動をされていると思います。いろいろなイベント等は青年協会の得意の分野の感がします。その反面我々が入会した時の「野武士的な集団」のイメージがうすらいだようにも思われます。又、現会員の中にはいろいろな職業の方がおられると思います。その中で会員同士のビジネス面での情報交換や各グループの学習を通じてこの不況をのりきることに目を向けられたらと思います。これからの青年協会の皆様の御活躍を期待してベンをおきます。

翔ばたけ 同好会!!

NYA同好会

●ゴルフ同好会

幹事 倉田和彦君
河野文彦君

第2回田川会長杯ゴルフコンペを3月16日(日)長崎空港カントリークラブにて9時より開催いたします。会費3000円。プレー費別途。

●麻雀同好会

名誉会長 田中潤介君
幹事 城谷富好君

3月29日(土)最終戦を行ないます。詳しくはインフォメーションをご覧ください。

●バスケット同好会

監督 原喜一郎君
キャプテン 地島 秀

卒業しました白山光男君の引退試合と監督最後の試合を含めてプレーします。会員の皆様多数参加下さい。2次会も設定致します。

日時 3月24日(月) PM7:00~

場所 山里中学校

●テニス同好会

幹事 櫻井俊郎
西口勝治

今年度最終(2回目だけど)同好会を開催いたします。多数のご参加をお待ちいたしております。日程、場所等は櫻井、西口がご連絡いたします。

現会員諸君!これぞ我が飲みっぷり!!

(けして、子供たちは真似しないで下さい。)



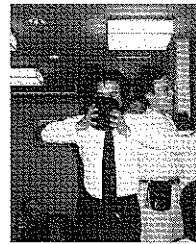
田中潤介君



白山光男君



新井正実君



板倉和人君



新ヶ江憲和君



OLYMPIC YEAR (編集後記)

4年に1度開かれるスポーツの祭典、オリンピック。その精神は参加することに意義がある。言語、人種、習慣の違いこそあれ、ルールとマナーを遵守しつつ、世界が一つになる瞬間。そこには血のにじむような個々の努力があるはずだ。日頃のトレーニングなくして栄光は勝ち得ない。

我々、広報委員会も同様だった。言わば毎月オリンピックが開かれているのだ。そのためのトレーニング(取材、編集、構成)があり、そして本番(発送)。我々のメダルは何色であったろう。

今年度、我々のスローガンは[AT HOME!]。各々の家庭で楽しく読んでもらえるような広報誌を目指した。果たして手垢にまみれるほど愛読してもらえたのだろうか?

毎月10日発送という我々にとっての[ルール]は守ったつもりだが、読むという[マナー]は各自の「家庭にある=AT HOME」と思う。家庭とはコミュニケーションの場であって欲しい。

家庭と仕事そして協会活動の並立—我々にとってこれは永遠のテーマなのだろう。

いい結果を出そう メダルを勝ち獲ろう

そして最後に あの言葉を借りて本年度を締めくくろう。

「自分で自分を誉めてあげたい」 有森裕子語録 引用

平成8年度 広報委員会